

## 南アフリカ 赤肉系グレープフルーツの輸出予測を再び下方修正

[FreshPlaza 2024年6月10日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)のグレープフルーツ品目別グループは、2024年産の輸出予測をさらに下方修正すると発表した。地域を代表する生産者らからのフィードバックは、梱包と出荷のデータに見られる今シーズンの傾向を裏付けており、予想輸出量をさらに調整する必要がある。

赤肉系グレープフルーツ：総輸出量は1,143万600箱(17kg/箱。以下同じ)と予測される。これは、シーズン開始当初の予測(1,347万5,600箱)から15%、5月の修正予測(1,257万2,030箱)から9%の減少となる。

白肉系グレープフルーツ：総輸出量は51万2,810箱と予測される。これは5月の予測から0.4%の微増となるが、それでもシーズン開始当初の予測(55万7,460箱)から8%減少している。

PP(輸出向け加工用)果実：総輸出量は119万1,900箱と予測される。これは、5月の予測から12%の増、シーズン開始当初の予測(76万7,080)から55%の増となる。

2024年シーズンは、多くの点で特徴的であることが分かっている。予測改定の最大の要因は、乾燥して温暖な天候の結果として果実が小玉化したことと、国内の加工用果実の価格が良好なことである。

グレープフルーツ品目別グループのバリー・ランドマン座長は、「グレープフルーツの出荷シーズンは早めの終了に向かっており、出荷量が急速に減少している。グレープフルーツの輸出品の大半は、今週の時点で梱包済みである」と述べた。

## フィリピン 日本がバナナの病害対策を支援

[FreshPlaza 2024年6月11日](#)

日本政府はフィリピンと共同で、バナナとカカオの病害対策プログラムを開始している。この連携事業は、国際協力機構(JICA)の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)の一環として、植物産業界(BPI)とJICAが共同で実施する「バナナ・カカオの新規病害管理システム開発プロジェクト」である。

BPIは、「SATREPSは、日本の大学や機関とフィリピン等のパートナー国の大学との共同研究を推進するものである」としている。この取組みは、フランシスコ・ティウ・ラウレル・ジュニア長官が率いる農業省の戦略に沿ったもので、生産の強化と関係者の連携を通じて食料自給率を向上させるものである。

BPIは、植物検疫規制とその準拠及び許可に焦点を当てた議論を行い、このプロジェクトの覚書(MOA)の締結を促進した。BPI、中部ルソン州立大学、玉川大学(東京)及びJICAの代表者がMOAの最終的な取りまとめに参加した。BPIは、プロジェクトの協力者のために、これらのプロセスを簡素化する包括的な支援を提供することを約束した。

国連食糧農業機関(FAO)の植物検疫措置委員会は、フザリウム菌熱帯株4(TR4)がバナナに与える脅威を強調し、この作物に依存している4億人以上の生産者、出荷業者、農村世帯への甚大な影響とそれが気候変動によって悪化していることを指摘している。

出典：[businessmirror.com.ph](http://businessmirror.com.ph)